

なんもく・山村ぐらし通信

南牧村への移住者の動向

昨年10月から移住コーディネーターを務めている大井川です。今回は南牧村への移住者の動向をお伝えします。

南牧村には、平成25年度から令和4年度までの約10年間で、移住・定住政策により38世帯56人が転入しています。すでに転出した人を除く。その他にも二拠点居住者が9世帯います。住居別では、協議会が運営する古民家バンクの物件を契約した方が7世帯、

村営住宅や村で改修した物件に入居した方が27世帯、その他の住居に入居した方が6世帯です。

一方、移住や古民家バンクに関するメールや電話の問い合わせは、年間150件ほどのぼります。直近6年では県内在住者が最も多く、次が埼玉県で、全体の9割以上が関東県内在住者です。年齢と性別では40代以上の男性が半数以上を占めますが、20代・30代からの相談もあります。相談内容は、物件を購入せずに賃貸で定住を考えている方が半数以上を占めます。移住希望時期も、条件が合えばすぐにでも」と答える

方が半数を占め、需要に対し供給が追い付いていないと感じます。

協議会が運営する古民家バンクには常時20軒ほどの物件が掲載されていますが、ほとんどの物件はすぐに入居できません。住むには水回りの補修が必須だったり、かなりの時間とお金をかけて直す必要があります。興味を持って問い合わせってくる方も、古民家に住むハードルの高さから契約に至らない場合が多いです。一方、補修が少なくすぐに入居できる物件には、問い合わせが集中します。ただし協議会では古民家バンクに物件を登録してもら

NEW FACE 協議会メンバー紹介



南牧村出身の岩崎香里です。「とらのこぼん」の製造・販売や「ちよっとしたカフェ」の店員として働いています。

う際、家の中は片づけなくても結構です」と所有者に伝えていきます。ありのままの状態で契約を結べるくらい金銭的・技術的・体力的に余裕がないと、南牧に移住するのは難しいと思うからです。

こんな南牧村に魅

2023(令和5)年8月発行 通巻第40号(夏季号)

発行責任者・発行元：南牧山村ぐらし支援協議会
問合せ：南牧村役場 村づくり・雇用推進課 協議会事務局
電話：0274-87-2011(代)
紙面編集：松林・高柳



協議会QRコード

協議会HP <https://nanmoku.org/>
活動内容や各種情報を随時更新中!

【空き家問合せ件数】
R5年1~6月(前回比)
電話：20件(+1)
1月 0件
2月 3件
3月 6件
4月 6件
5月 2件
6月 3件

メール等：13件(-21)
1月 1件
2月 1件
3月 2件
4月 2件
5月 4件
6月 3件

現地見学：14件(-4)
1月 2件
2月 2件
3月 3件
4月 2件
5月 2件
6月 3件

【協議会ウェブサイト 訪問・閲覧数】
1/1-6/30

閲覧数 26,309
訪問数 7,785
訪問者数 5,403
平均ページ閲覧数 1訪問3ページ

力を感じ、問い合わせをする人が多いのはなぜでしょうか。移住コーディネーターをしていることを住民に話すと、「南牧に移住したい人がいるん？」なんて南牧なん？」とよく聞かれます。私の考えは、ご縁があって「南牧を知り、ご縁があって」家が決まり、ご縁があって」住民とな

ながら、ご縁があったり定住しているというものです。住民と話したり野菜をもらったりした出逢いが積み重なって南牧を好きになり、住み続けたいと思う方も多くなります。

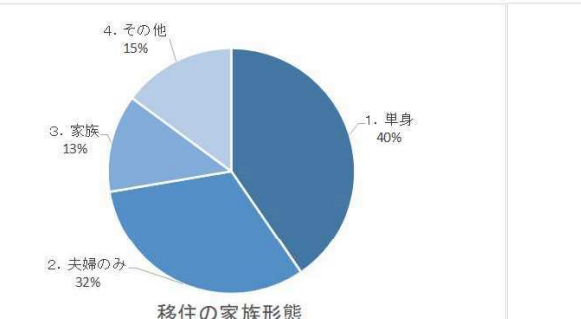
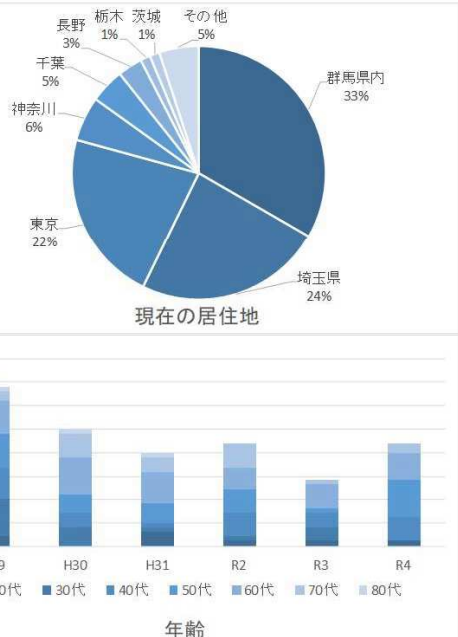
着任当初、コーディネーター歴7年の先輩である中之条町の村上さんから大切なことを教わりました。それは「移住希望者2：地域8」という言葉です。移住希望者のやりたいことを叶える前に、地域に馴染むかどうか、地域が必要としている人かどうかを見極めることが大事だということです。私は南牧村に移住してまだ1年で、知らないことや知らない場所、人が多いです。ぜひ皆さんから南牧のことを色々教えていただきたいと思っています。

この度、南牧山村ぐらし支援協議会の会長に就任しました志賀正と申します。前会長の後を引き継ぎ、当協議会の会長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願致します。移住コーディネーター、役員担当部署に加え、当協議会が大きく関わっています。協議会には、会員である移住者や地元出身者の意見・体験をダイレクトに聞き、移住相談会や空き家の情報発信に活用できるといった強みがあります。この強みを活かして、これからも協議会の活動を行ってまいります。

会長就任の挨拶

大井川(寄稿)

移住希望者の選択肢の一つに南牧村がなれば



会員からの投稿

蛍の輝きはいつの間にかヒグラシの鳴き声へと移り変わった。川の流れと鳥の鳴き声が聞こえると、朝の涼しい風が網戸を通り抜け蚊帳を僅かに揺らしているのを感じる。ペシペシ：ペシペシ：僕より少し早く起きていたのか隣で寝ていた1才5ヶ月の娘

が僕の頬を叩いている。寝返りを打ちながら眠たい目を開けると娘が満面の笑みでペシペシペシ。

南牧村に住もうと決めた時、農家になりたいという思いを持っていたと同時に、ここで子供を育てたいという思いも持っていました。あったのはイメージとやる気だけで、お金と一緒に知り合

いも全くありません。おまけに僕の父と母は結婚は諦めたものと思っていたらしいのですが、沢山のご縁に恵まれ、農家をしながら今こうして家族3人で暮らしています。ここだったら大丈夫という信頼感が最初からあるのですが、何故？と問われると言葉に詰まります。人が良いからや、空気が美味しいから、といった、ごくありきたりの台詞には収ま

りきれないこのことを端的に説明できる能力があったのならばもっと楽しいのにと常々思っています。

なんとなく人が話してた言葉が妙に自分に響く事があるのですが、ある先輩が話しをしていた言葉が頭に残っています。本業は父親「仕事は二の次という訳ではないですが、家族の成長にも仕事と同量でバランス良く励んで生きていくことが大切というニュアンスの話と捉えました。父親像や言葉の理解の仕方は勿論人それぞれありますが、僕の場合は、子供の成長にはある一定の時期まではたつぷり関わりたいタイプなので妙に腑に落ちました。この土地で育てた自分が作った野菜などを食べ、村の方々や自然環境から生きる

こと基礎と楽しさを身につけながら心を育てていければと思います。



収穫のお手伝い

(五十嵐寄稿)

初めての山村ぐらし

私の好きな風景

警察官に異動はつきもの。しかし、南牧村について調べたところ、自然豊かな山や川、谷間に建つ家が決まり、これから始まる新しい生活に、私は胸を膨らませました。それというのも、駐在所勤務を希望していたからです。だからと、今まで過ごした街の暮らしに不満があったわけではありません。買物する場所は近くにありますが、子供の遊び場にも困りません。ただ、そんな生活にどこか息苦しきを感じていました。私は少し人見知りなところがあり、新しい生活に少し不安はありま

した。しかし、南牧村について調べたところ、自然豊かな山や川、谷間に建つ家が決まり、これから始まる新しい生活に、私は胸を膨らませました。それというのも、駐在所勤務を希望していたからです。だからと、今まで過ごした街の暮らしに不満があったわけではありません。買物する場所は近くにありますが、子供の遊び場にも困りません。ただ、そんな生活にどこか息苦しきを感じていました。私は少し人見知りなところがあり、新しい生活に少し不安はありま

あう人々は気さくで優しいです。幾重にも重なる深い山々から、太陽の光とともに運ばれる川の清流に私は時を忘れて眺めていました。夫にこのことを話したところ、南牧村にはきれいな場所がまだまだあるよ」と聞きました。これからはすばらしい風景と巡り合えるのが楽しみです。

遠坂フクミ寄稿



上千原橋からの風景

空き家の内部調査

今年度に入り協議会の空き家の内部調査も再開し、徐々に回数も増えてきました。空き家の内部調査は協議会で運営する空き家バンクに登録するために、間取り作成や写真撮影、設備の状況、周辺環境の様子など様々な項目を調査します。意外と大変なんです！

私は調査に参加させて頂くときには主に間取り図を書く作業にすることが多いのですが、古い家屋は柱の太さや長さなどの寸法がばらばらだった

や扉の寸法が実は結構違ってたりして、図にするとなかなか思い通りに収まりません。消しゴムは必需品です！たまには床が踏み抜ける事もあります！

ですがそんな中でもそれぞれの家の作り方の違いや、こんな工夫がされてるんだ。など、古い物にふれながら新しい発見ができる時があって、それがちょっと不思議な感覚で楽しかったりします。

中澤寄稿



メンバーと確認しながら調査を進めていきます